

avantiのリサーチによると、福岡は「かわいくて仕事がデキる独身女性の多い街」。「いい男がいなーい」という巷の声に呼応して、いい男を捜すプロジェクトを始動。福岡をもっと楽しくするために、毎月取材して、誌面登場の「よかメン」とその友人たちと読者の交流会も予定しています。なお、「よかメン」は、独身には限りません。

福岡のいい男を捜せ!

プロジェクト

今月のよかメン



19
藤田 一樹さん(29)
Kazuki FUJITA

藤田さんへ10の質問

- 好きな女性のタイプは? 妻です。いつも冷静なアドバイスをくれます。
- 好きな本は? 最近ビジネス書や経営学の本をよく読みます。速読も勉強しました。
- 好きな食べ物? 今はまっているのは、オフィス向かいにある「パンフの森」のチーズケーキ。甘いものはあまり食べないけれど、これは好きです。
- 自分の性格で好きなどころは? ポジティブなところ。くよくよしていても時間がもったいない!
- 自分の性格でキライなところは? ないですね。
- 大事にしていることは? 自分自身が昨日より成長していくこと。そして人に何かを与え、貢献していきたい。
- 家事分担は? 5:5。食器洗い、洗濯、掃除などをします。
- 休みの日は? ドライブ。太宰府や小倉などのカフェに行きます。
- 福岡で一番好きな場所は? 大濠公園です。
- あなたのメンターは? 父親のほかに、エクステリア業界、経営の分野にそれぞれにいます。その分、いろんな考え方ができるから。

変わりにくい業界だからこそ挑戦する意味がある。 エクステリアで人々の生活を、人生をもっと豊かに。

大きな河川の流れに逆らうことは容易ではない。それが長い年月をかけて作られたものならなおさらだ。古くから伝統を受け継がれてきた造園・外構の世界。そんな業界に新たな風を吹き込む若き経営者がいる。「カエデスタイル株式会社」は、エクステリアといわれる庭を含めた空間・環境づくりの提案から施工までの一連を自社で行うめざらしいビジネススタイルを持つ。そのビジネススタイルを確立したのが、3代目の藤田一樹さんだ。

幼いころから造園師である父親の背中を見て育った藤田さんだったが、大学卒業後、一度は自動車メーカーのディーラーの道へと進む。父親の体調不良をきっかけに、造園・設計の勉強をはじめ、父親の会社を継ぐかと思いきや、なんとそのまま独立しエクステリアの設計会社を作って経営者に。それは業界の古い体質や考え方を疑問を抱いてい

たゆめの行動だった。「一生懸命いいものを造り上げよう」と仕事に打ち込む、造園師である父親の、職人の姿にはとても感銘を受けます。しかし、今のエクステリア業界は工務店などの下請けの仕事が多く、消極的に見えたんです。もっと職人技術を活かして自ら仕事をするような風土に変えていきたいと思いました。そこで「カエデスタイル」が行うのが、サービスやホスピタリティ精神の溢れる、流るやデザイン性を取り入れたエクステリアの提案。顧客から直接ニーズを引き出して設計・提案をし、施工後依頼者の生活まで見届けるといふ、既成概念にとらわれないビジネススタイルだ。

さらに藤田さんは、世間の家作りの意識までも改革しようとしている。これまで建物として、家のみ、を重視してきた私たちに提案するのは、「LDK+G」という家づくりの新しい考え方。基本となるLDKにG(ガーデン)を加え、駐車場や庭などの土地すべてを含めたトータルでの住まい作りだ。今後は、共有スペースを活かした、コンセプトのある街づくりをしたいという。彼の目指すは、田舎のコミュニケーションのある街。それは、業界の域を超えた発想かもしれないが、そこに住む人たちと関わりながら、エクステリアを造る「カエデスタイル」なら、実現可能だろう。「最初は、職人文化の業界に踏み込むことに戸惑いもありました。けれど、変わりにくい業界だからこそチャンスだと思っただけです。そこに自分が今入って行く意味がある、そう思えたんです。彼の挑戦はまだはじまったばかり。その強い意思と他業界の経験を活かした客観的な視点が、エクステリア業界の未来をきつと切り開いていくはずだ。

● PROFILE ●
カエデスタイル株式会社
代表取締役 / Ex-Gardenプロデューサー
1982年生まれ。福岡県直方市出身。大学卒業後、車メーカーディーラーを経て、エクステリア業界へ。造園・設計の勉強を始めて3年で独立し「カエデスタイル」を創立。その後4月に先代から58年続く父の会社と統合し、現職に。エクステリアの提案・設計から、施工までの一連を自社で行っている。
第33回 TOEXエクステリア施工コンクールで入選した、ガーデンルームのある庭。「外に出る機会が増えた、生活が変わった」と依頼者からの言葉に、思わず顔がほころぶ。

